

ジュニア救命士養成講習について

教育長 学校や消防署とも連携をしながら検討していきたい

坂井

心臓突然死は、6万人にも上っている。救命率のより一層の向上のためには、より早い段階での教育、意義づけが重要であると考えられる。総務省消防庁では、学校教育での救命講習の重要性を鑑み、短時間で講習できる救命入門コースを追加するとともに、受講対象年齢をおおむね10歳以上とした応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要項を平成23年8月に示している。このような背景から、学童期に救命講習の充実強化を図るため、ジュニア救命士

制度を取り入れる自治体が増えている。小学校の先生と連携し、消防署の職員が出前講座を実施し、修了者にはジュニア救命士認定書を渡している。命の大切さや救命措置の重要性を根づかせるため、バイスタンダー（その場に居合わせた人）による救命率の向上には、より早い段階である小学生を対象とすることで、意識や効果が高まるのではないかと。ジュニア救命士養成講習を当町でも導入していけないか伺う。

統合保育所の弾力を持った受け入れを問う

坂井

受け入れは0歳児が24名、1歳児が48名、2歳児が54名の合計126名と

なっているが、現在、3、4、5歳児、各8名の24名を合わせた150名の規模で建設されている。この施設の規模として弾力性を考慮すると3歳児から5歳児までは、何人まで受け入れが可能か。調理室の能力は何食分なのか。統合保育所で3、4、5歳児を受け入れることになった場合の課題点を伺う。

それが可能。調理室の能力は、当初の計画のとおり500食を提供できる。3歳以上児を受け入れることとした場合の課題は、法の基準による保育士の人員の確保。

坂井

認定こども園に対して定員の弾力化を求めているが、それでも無理が生じているのであれば、統合保育所こそが弾力化を持つて3、4、5歳児を受け入れるべきではないか。新システム運用での混乱に対する受け皿となる必要があるのでは。

認定こども園の弾力化を求めているが、それでも無理が生じているのであれば、統合保育所こそが弾力化を持つて3、4、5歳児を受け入れるべきではないか。新システム運用での混乱に対する受け皿となる必要があるのでは。

教育長

新たな取り組みが次々と入

町長

3歳児から5歳児の受け入れ可能人数は、面積要件から計算すると、3歳以上児の保育室は、31名

で、予備保育室も使用すると15名の受け入れが可能。全体で46名の受け入れが可能な。全体で46名の受け入れが可能な。全体で46名の受け入れが可能な。

町長

統合保育所で3歳児から5歳児に対する弾力化

統合保育所で3歳児から5歳児に対する弾力化は、70・9%。11施設を指

町長

公共施設57施設のうち洋式

公共施設57施設のうち洋式便器がある施設は48施設、洋式便所がない施設は9施設。便器別の洋式化の状況としては、洋式化率は70・9%。11施設を指

定避難施設として定めているが、洋式便器がある施設は10施設、洋式便器がない施設は1施設。便器別の洋式化状況としては、洋式化率は72・8%。内閣府より避難所におけるトイレ確保、管理のガイドラインが示されており、高齢者や障がいを持つ方等にとっては和式便器の使用は極度に困難であるので、施設の新設や大規模改修の際には洋式便器の設置を推進すべきであるとされている。保健福祉会館の和式トイレの洋式化を初め、高齢者が多く集う施設や各公共施設の利用状況、町民の皆様からの要望などを踏まえ、トイレ洋式化を進めてまいりたい。

坂井

高齢の方も多く集う公共施設のトイレの洋式化は、非常に重要な課題。現在、当町での洋式化の割合はどうか。また、避難所として指定されている施設での洋式化の割合はどれくらいか。特に、高齢者だけでなく、小さなお子さんを連れられた方の利用も多い保健福祉会館は、洋式トイレが少なく、不便であるという声も多く聞かれています。この施設は、当町で唯一の福祉避難所でもあり、早急な改修が必要である。今後の公共施設のトイレ洋式化に対する計画について伺う。



坂井 美穂 議員

新たな取り組みが次々と入

統合保育所で3歳児から5歳児の受け入れ可能人数は、面積要件から計算すると、3歳以上児の保育室は、31名

で、予備保育室も使用すると15名の受け入れが可能。全体で46名の受け入れが可能な。全体で46名の受け入れが可能な。

一般質問 坂井美穂